

## 共通プライマーを用いたRT-PCR法による 小型球形ウイルス (SRSV) の検出

宇田川悦子・井上 栄・岩崎 明・原田誠三郎  
斉藤博之・仮屋園弘志・川本尋義

臨床とウイルス 24 (3), 191~197 (1996)

我々は既に、わが国独自のSRSV千葉株とSRSV標準のノーウォークウイルスの双方の株に共通する塩基配列を元に共通プライマーを構築し、国内各地で収集された糞便中のSRSV特異配列をRT-PCRにより増幅可能なことを報告した。

このPCR産物の検出法として、従来使用されているアガロースゲル電気泳動に加えて非放射性プローブを用いるサザンブロット・ハイブリダイゼーション法を併用することで検出感度を1,000倍上昇させることができた。

そこで、1993年3月から1994年2月まで秋田県、岐阜県、山口県で発生した流行事例からの94検体と北九州市の散发事例から収集された40検体の患者材料について、これらの方法でSRSV遺伝子検出を行い、従来の検査法である電子顕微鏡法と比較検討した。3法とも検査した134検体中RT-PCR単独法では10 (8%) 検体がSRSV陽性であった。サザンブロット法では50 (39%) 検体と検出率が上昇した。また、RT-PCRサザンブロット法は、電子顕微鏡法 (8%) に比べ高率であった。

## Tetrodotoxin concentrations in cultured puffer fish, *Fugu rubripes*

K.Matsumura

J.Agric.Food Chem.44,1-2 (1996)

養殖フグは一般に無毒とされている。この研究では、テトロドキシン (TTX) に対するモノクローナル抗体を用いたEnzyme immunoassayで、養殖トラフグの臓器別TTX濃度を測定した。その結果、皮膚、筋肉、肝

臓及び内蔵のいずれからでもTTXが検出された。その内、皮膚の濃度が最も高く、肝臓のそれが最低であった。しかし、各臓器のTTX濃度は、食品衛生上の安全基準を下回っていた。